

重点となる具体の学校経営目標(3)【グローバル人材育成】								
グローバル人材の育成に向け、積極的に国際交流行事に参加させたり、日本文化に触れさせるとともに、文化的行事や文化部の活動を通じて豊かな感性を養う。								
課・室・学科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部評価
総務課	種々の活動を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、広い視野を持ち異文化を理解する態度を養う。	・国際経済科においては、イングリッシュチャレンジ、異文化理解講演会を中心としつつ、他の取組にも積極的に参加させる。 ・その他の学科においては、陸行中学校との交流、岡大留学生との交流等、積極的に国際交流行事の参加を呼びかける。	・学校評価アンケートで肯定的な生徒が 60%以上(R02 60%) になる。 ・国際経済科においてはアンケートによって活動の満足度が高い生徒が 80%以上(R02 80%) になる。	・学校評価アンケートが未実施なので、現段階では数字の評価はできていない。オーストラリアホームステイが中止になり、オンラインによる代替行事を企画したが参加者はいなかった。それとは別に国際経済科2年生がオーストラリアの学生と定期的にオンライン交流を行っている。	B	・学校評価アンケート「様々な場面でグローバル教育が行われている」の生徒肯定的評価は 69%(昨年度60%) と微増。ホームステイは今年度も実施できなかった。陸行中学校との交流は箏曲部、漫画研究部がオンラインで行い、活発な交流にできた。	B	B

重点となる具体の学校経営目標(4)【心身の健康】								
授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、健康教育・保健指導・教育相談機能を充実させて心身ともに健全な生徒を育成する。								
課・室・学科	重点目標	具体的計画	達成基準	中間	評価	最終	評価	外部評価
生徒課	授業や学校行事、部活動を通じて自己肯定感を養い、心身ともに健全な生徒を育成する。	・魅力ある授業や部活動の運営について教職員の同僚性の向上を図る。 ・部活動を活性化させるための教員組織と生徒組織の強化を図る。 ・外部に向けて効果的な情報発信を行う。	・部活動加入率が 90%以上(R02 90%) になる。 ・誠友会行事、クラス活動、部活動など学校行事に対する満足度・達成度が 80%以上 になる。(昨年度目標なし)	・部活動加入率は 88.8% で昨年度より 1.6% 増加しているものの、緊急事態宣言発令により、部活動の活動自粛でなかなか活動ができていない状況である。 ・厳しい状況の中、総文祭に箏曲が参加、吹奏楽が特別実行委員賞を受賞した。また、全国総体に弓道部が団体で出場、新体操部が団体で 9位 と活躍をした。	B	・部活動加入率は昨年より増加したものの、コロナ感染が急増し、活動の自粛、時間短縮、人数制限があるため、全体的に部活動に対するモチベーションがなかなか上がらなかった。 ・厳しい状況の中、3年女子生徒が全国商業高等学校英語スピーチコンテストで過去にない 全国2位 の快挙を成し遂げた。	B	B
保健厚生課	心身ともに健康で、主体的に健康管理ができる生徒の育成。 ・新型コロナウイルス対策に積極的に取り組み、日常の衛生管理を充実させる。	・年間の活動テーマを決めて、保健委員会と協力し、保健活動を推進していく。 ・保健だより作成の際に年間テーマに沿った内容を取り上げる。→保健委員による各クラスでの保健指導の充実を図る。 ・受診した生徒の受診報告書を提出させ、受診率を可能な範囲で高める。	・保健委員会活動への保健委員の満足度が 90%以上(R02 90%) になる。 ・各種受診率が受診可能生徒の中で 95%以上(R02 95%) になる。	・保健委員会活動は、飛翔祭での発表を目標に現在取組を行っている。年明けの保健委員会活動報告への準備をしている。 ・各種検診については、コロナ対策関連により延期となっており、11月の内科検診を終えてからの受診指導を行いたい。	A	・保健委員会活動については、コロナ対策により、換気のチェックや昼食時の放送による注意喚起等を実施。保健委員会活動について 90%以上 の満足を得ることができた。2月に開催される学校保健委員会での発表がコロナ対策によりできなくなったが、資料や年間の活動報告は良いものを作成することができた。 ・検診後の受診率は声かけをしながら推進したが、検診時期が遅くなったことやコロナ対策関係で、十分ではなかった。	B	B
人権・教育相談室	問題を抱えた生徒の早期発見、対応に努める。	・相談室・学年団会議、心の健康相談後の連絡会等を活用し、生徒情報の収集・交換に努める。 ・「ストレスチェック(悩みに関するアンケート)」等を有効活用し、生徒へのきめ細かい声かけを行う。 ・SC・SSW・校医等の専門家や関係機関と連携し、支援・対応にあたる。	・学校評価調査の「心のケア」に関する項目において、「よく当てはまる」「やや当てはまる」の生徒の回答が 80%(R02 86%)以上 、教員の回答が 90%以上(R02 96%) になる。	・会議での情報交換、担任や保健室との連携等を通じて、問題を抱えた生徒の把握に努め、必要に応じて適切にSC、SSW、学校医に繋いでいる。 ・先生方へ、コロナ禍が生徒へ与える影響の深刻さについて伝達し、以前以上に生徒の変化に気付いたり話を聞いていただくよう依頼した。	A	・学校評価調査の「心のケア」の項目について、肯定的評価は生徒 89% 、教員 91% であった。 ・会議での情報収集、担任・保健室との連携を心がけ、気になる生徒の早期発見に努めてきた。 ・「ストレスチェック」での相談希望や「心の健康相談」の希望は昨年より増え、SC、SSW、学校医等の専門家と連携して対応にあたることも多かった。	B	B